

<p>ふりがな 氏名</p>	<p>なかの しんきち 中野 信吉 (文芸)</p>
<p>功績概要</p>	<p>昭和57年～平成10年 姫路地方文化団体連絡協議会（姫路文連）事務局長 平成16年 「作家・松岡譲への旅」（林道社）刊行 第22回黒川録朗賞（姫路地方文化団体連絡協議会） 平成25年～令和5年 「文芸日女道」編集長 令和5年 自伝エッセイ「路地のなかの青春」（風来舎）刊行 令和6年～ 「文芸日女道」発行人</p> <p>昭和43年に「文芸日女道」（姫路文学人会議）に入会。長きにわたり編集に携わり、昭和50年からは事務局長として会の運営に中心的な役割を果たす。平成25年の550号発行から今日に至るまで、編集長として牽引してきた。</p> <p>自身も「聞き書き・はりまの文人」「北京・モンゴル紀行」など、評論、小説、エッセイを多数連載。なかでも「作家・松岡譲への旅」は、夏目漱石の長女筆子と結婚し、「破船」事件で文壇から抹殺された不遇の作家・松岡譲を現代に生き返らせ、全国的に高い評価を受けた。</p> <p>さらに、令和6年に刊行された「路地のなかの青春」は、戦後播磨の文化活動の潮流を自身の回想とともに克明に記録した貴重な文学史である。</p> <p>また、昭和57年から平成10年まで姫路地方文化団体連絡協議会（姫路文連）の事務局長を務め、播磨地方の文化団体の活動を長年支えてきた。</p> <p>長きにわたる創作活動はもとより、播磨地域の文学振興に尽力してきたことは非常に有意義であり、その功績は大である。</p>